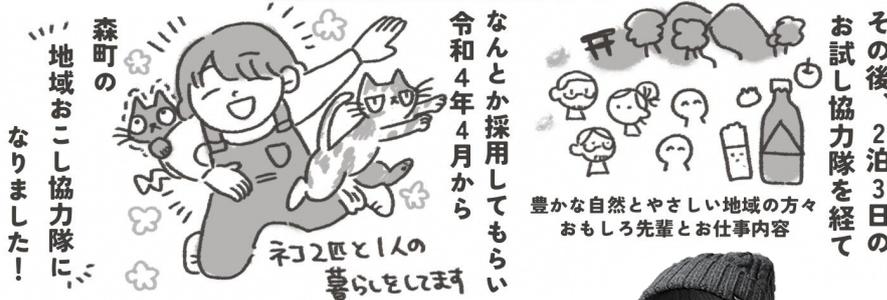


我が町の協力隊

～協力隊になるまで編～

Q. どうして森町の地域おこし協力隊に？



まつば ちか 松葉知香 (27)

出身：愛知県知多郡東浦町
活動テーマ：
中山間地域活性化コーディネーター
活動内容：
クラフトビールのブランディング
特産品開発・PR、SNS等での魅力発信



森町地域おこし協力隊新聞

令和5年（2023年）

1月

第7号

メンバー紹介

地域おこし協力隊

佐野 祥

横山 春人

松葉 知香 (パチカ)

移住コーディネーター

岩瀬 進哉

森町役場

定住推進課

12月の活動報告

佐野

- 景観保全
もみすり、草刈り
- ゲストハウス関連
床貼り、内壁断熱、配線
- 手仕事関連
干し柿メンテナンス、蔓とり
- イベント関連
山ノ上ノ音楽会 vol.4 企画、町並みと蔵展、餅つき
- その他
活動報告@森町議会、活動紹介@農林大学校、露天商資格取得

横山

- 移住定住
ワンストップ空き家相談会
- 交流田んぼ
稲木片付け、草刈り
- 地域
森小、飯田小森林教室@旧三倉小、水源タンク掃除、県道落ち葉掃除、子供会餅つき
- その他
活動報告@森町議会、活動紹介@農林大学校

松葉

- 商品開発関連
どうもろこしバタージャムの検体検査準備
- 広報関連
協力隊新聞編集作業
- 関係人口創出
静岡文化芸術大学4年生卒制×地域とのマッチングサポート、
- その他
町並みと蔵展、活動報告@森町議会、活動紹介@農林大学校

岩瀬

- 移住定住相談
移住相談、店舗相談
- 空き家の調査
草ヶ谷、問詰地区
- 空き家活用推進
旧レコード店改修、鍛冶島交流拠点整備
- 関係人口創出
町並みと蔵展、棚田交流会餅つき、活動報告@森町議会



僕と森町——時々オトン——

僕は、大阪生まれ。おかん憲子と、おとん勝一まさかずの間にオギヤと生まれた。高校を出て大阪を離れ、理学療法士りきがかりょうほしになるための道を進んでいたが、このままでいいのかと悩んでいた。あるお正月、大阪へ帰りたとき、やかましい家族がそろった。おせちを前に「いただきます！」と言った直後。おとんが突然、真面目な顔して「話があんねん。」と話し始めた。

「もうなあやめるわ。」「何を？」

「・・・市役所や。」「え！なんで！なんで！？」

僕はびびりして箸が止まった。おかんは下を向いている。「高校を出て、市役所入って35年、ほんまにいろんなことやらせてもらった。」

おとんは、働き始めて今に至るまでの楽しかったこと、苦しかったことをひたすら振り返った。そして何より家族を養うため、いつからかずっと我慢しながらも仕事を続けてきたことを初めて家族に話した。

「おとん、そうやったんや。それでこれからどうすんの？」

「・・・花咲かすねや！」

思ってもない答えに、また僕はびびりした。

「・・・なんなんそれ！」

「残りの人生、落語で人に喜んでもらって、一花咲かせたいんや！」

姉と妹はボカンとしている。おかんは相変わらずうつむいたまま。なぜか僕には、そのときおとんが初めてかっこよく見えた。物心付いた頃から、おとんは仕事の傍ら、落語かたわらをしていた。確かにそれが、おとんの生きがいみたいだった。「人を笑顔にする」という自分の人生へ思い切って歩き始めるおとん。もがきながらも、まっすぐに人生に向き合う父の姿に触れ、僕の中で何かがはじける音がした。つづく

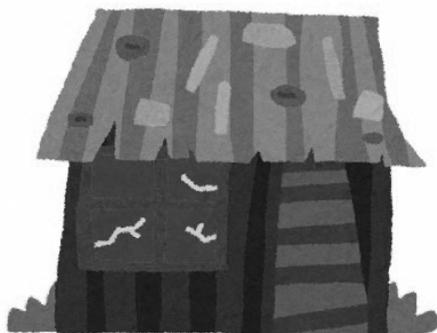
横山春人(ヨコヤマハルト)・森町地域おこし協力隊

家族で「自然豊かな場所で暮らしたい」と、様々な市町を訪ね、

森町の自然の豊かさと温かい地域に魅せられ移住。地域や自然に学びながら、持続可能な地域づくりに取り組んでいる

移住コーディネーター通信

移住コーディネーター
岩瀬進哉



協力隊の活動記録

地域おこし協力隊
佐野祥

山暮らし2年目。山間部への移住のハードルを少しでも下げようと「暮らしづくりのフィールドワーク」というワークショップを開催しています。昔から伝わる土地を守る技術を、専門家を招き、参加者と一緒に学んでいます。

12月は、コンクリートを詰めず石だけで外壁を積む『空石積み』を行いました。2日間で参加者約20名、10平方メートルほどを積むことができました。

地域おこし協力隊とは？

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。隊員は各自自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年以上、3年未満です。

連絡窓口のご案内

森町役場（定住推進課）

0538-85-6321



平成28年度の町の空き家実態調査によると、森町の空き家は約五百戸あるそうです。

建物総数に占める空き家の割合は三倉地区、天方地区、森地区の順番で多く、三倉地区では建物総数の4分の1が空き家になっています。昨年度、定住推進課と地域おこし協力隊で、実際に三倉地区と天方地区の各集落の皆さんに同行してもらい空き家を一軒一軒回らせていただき、活用が可能な空き家の調査を行いました。調査を通じて感じたのは、

実際に空き家になっている物件でも、活用するためには建物に大規模な修繕が必要で、すぐに活用ができるような物件は稀まれという状態でした。建物は人が使わない状態では適切な管理をしないと、年々傷んでしまいます。空き家になる前から、建物の行く末をご家族で話し合っていたら、相談していただけるとスムーズに次の方につないでいけると思います。是非、森町役場・定住推進課までご相談ください。